

HOPES

ホープス セカンド

2nd

花と星と家族の笑顔に囲まれて

花井 由貴さん（大久保・外内）



3人の幼い子どもを育てながら就農した花井さん。カスミソウの栽培に取り組み、昨年は、初めての出荷も果たしました。カスミソウは、県と村の補助を活用して整えた4棟のハウスに加え、露地でも栽培。伊丹沢出身で自営業の夫、準二郎さんも、積極的に作業を手伝ってくれるそうです。

花井さんは福島市の出身。進路に迷っていた時、「植物は

勤めていた会社を退職して就農。カスミソウ生産組合に加わり、栽培や出荷のノウハウを学び、昨年から出荷もできるようになりました。3人の子ども達は村立のこども園と小学校に通っています。



2月19日には、村で働く仲間と共に、内堀雅雄福島県知事との懇談に臨みました。仕事に子育てに忙しい中、村への協力も惜しみません。

※知事の来村はP21に関連記事

素直だよ」という父の言葉に励まされ、福島明成高校に進学。草花の栽培を専攻しました。「思い返せば今につながる接点がたくさんあって」。就農時の補助も、「嫁ぎ先のお母さんの情報がきっかけです」。しかも小さい頃は、「農家のお嫁さんになって農家になる」のが夢だったとか。「私は記憶にないのですが、母がそれを覚えていました」。

一昨年から完全移住。村の星空に見とれ、四季を実感しながら暮らす毎日です。子ども達も「先生方が手をかけてくれて、少人数だからこそできる教育を受けています」。そして「何でも聞くことができる」「心強い先輩方にも恵まれ、人とながりながら、花農家としての基盤をつくっているところです。「当たり前ではない、本当にありがたいこと」と笑顔をほころばせる花井さんでした。

〈編集後記〉

●福島県市町村広報コンクールにおいて、昨年の「広報いいたて12月号」が広報紙（町村の部）で佳作に選ばれました。村民の皆さんのご協力なしでは、作成できない広報紙。いつもいつもありがとうございます。村で取材ができること、写真撮れることに改めて感謝し、精進いたします！（木幡）

●第6次総合振興計画の中間報告会。出席人数は多くなかったものの、方向性を示す大切さや、今まで通りでないからこそ大事にしたい考え方など、深い部分で意見が語られました。自分の考えを真つ直ぐに述べる誠実さ。相手の立場を思っ一言を添える優しさ。村をつくってきた先輩方の声、次世代につながるという中間世代の声に、村の底力を改めて感じました。（星）



飯舘村は「日本で最も美しい村」連合に加盟しています。